

## 建設工事等入札心得

一般社団法人唐津東松浦医師会が発注する建設工事及びこれに関連する業務の契約に係る一般競争入札及び指名競争入札（以下「競争入札」という。）を行う場合における入札その他の取扱いについては、佐賀県財務規則（平成4年規則第35号）その他の法令に定めるもののほか、この心得の定めるところに準ずるものとする。

### （入札方法等）

1 入札の取扱いは、次のとおりとする。

- （1）競争入札に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）は、仕様書、図面、契約書の案及び現場等（以下「仕様書等」という。）を熟覧の上、入札しなければならない。この場合において、仕様書等について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。
- （2）入札書は、別紙様式1により作成し、公告又は通知書に示した時刻までに提出しなければならない。
- （3）郵便による入札が認められている場合は、二重封筒とし、中封筒に、工事又は業務名称、あて名、入札参加者の氏名を記載し、表封筒に「入札書在中」と朱書きした書留郵便にて郵送すること。この場合においては、公告又は通知書に示した場所及び時刻までに到達しなければならない。
- （4）入札参加者は、その提出した入札書の書換え、引換え又は撤回をすることができない。
- （5）入札参加者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

### （工事費内訳書及び現場代理人等配置予定事前届出書）

2 建設工事に係る競争入札の入札参加者は、次に掲げる書類を提出しなければならない。

#### （1）工事費内訳書

- ア 入札参加者は、1回目の入札金額に対応する工事費内訳書を作成し、入札書と併せて提出しなければならない。
- イ 工事費内訳書には、工事番号及び工事名、あて名及び入札参加者の住所・氏名を記載し、押印すること。

- ウ 工事費内訳書の内容は、工事区分及び各工種に相当する項目ごと（営繕等に係る工事にあつては工事種目及び各科目に相当する項目ごと）の数量、金額等を表示したものとす  
る。
- エ 工事費内訳書について疑義があるときは、入札参加者に説明を求め、その結果、根拠あ  
る説明が得られない場合は、当該工事費内訳書を提出した入札参加者の入札を無効と  
することがある。

（入札の辞退）

- 3 入札辞退の取扱いは、次のとおりとする。
  - （1）入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができる。
  - （2）入札を辞退するときは、その旨を、次の各号に掲げるところにより申し出るものとす  
る。
- ア 入札執行前にあつては、入札辞退届を契約担当者等に直接持参し、又は郵送（入札日の  
前日までに到達するものに限る。）して行う。
- イ 入札執行中にあつては、入札辞退届又はその旨を明記した入札書を、入札を執行する者  
に直接提出して行う。
  - （3）入札を辞退した者は、これを理由として以後の指名等について不利益な取扱いを受け  
ることはない。

（公正な入札の確保）

- 4 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第5  
4号）等に関する行為を行ってはならない。

（入札の取りやめ等）

- 5 入札の取りやめ等の取扱いは、次のとおりとする。
  - （1）入札参加者が連合し、又は不穩の行動をなす等の場合において、入札を公正に執行す  
ることができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入  
札の執行を延期し、若しくは取りやめることがある。
  - （2）天災地変その他のやむを得ない事由により入札をすることができないと認められる

ときは、入札の執行を延期し、若しくは取りやめることがある。

(無効の入札)

6 次のいずれかに該当する者が行った入札は、無効とする。

- (1) 参加する資格のない者
- (2) 当該競争入札について不正行為を行った者
- (3) 入札書の金額、氏名及び印影について誤脱又は判読不可能なものを提出した者
- (4) 入札書の文字及び記号について消滅しやすい方法で記入されたものを提出した者
- (5) 入札書の金額の最初に¥の記号を記入していない、又は入札書の金額にアラビア数字を用いていないものを提出した者
- (6) 入札書の金額を訂正したものを提出した者
- (7) 入札書の誤字、脱字等により意思表示が不明瞭であるものを提出した者
- (8) 民法(明治29年法律第89号)第95条(錯誤)により無効と認められるものを提出した者
- (9) 一人で2以上の入札をした者
- (10) 代理人でその資格のない者
- (11) 次のいずれかの工事費内訳書を提出した者

ア 1回目の入札書の額と一致しないもの(千円未満の端数処理を除く。)

イ 見積もった工事費合計から一括等での値引きをしたもの

ウ 記載すべき項目についての記載がないもの

エ その他積算内容に誤りがあるもの

- (12) 佐賀県暴力団排除条例(平成23年佐賀県条例第28号)第2条第4号に規定号)に規定する暴力団等
- (13) 上記に掲げるもののほか、競争の条件に違反した者

(落札者の決定)

7 入札を行った者のうち、契約の目的に応じ、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、次に掲げる入札については、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札した者以外の者を落札者とすることができる。

- (1) 低入札調査基準価格を設けた入札については、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札をした者の当該入札に係る価格によってはその者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認めるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適當であると認めるときは、その者を落札者とせず、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札をした他の者のうち最低の価格をもって入札をした者を落札者とする。

(再度の入札)

8 再度の入札については、次のとおりとする。

- (1) 開札をした場合において、7の規定による落札者がいない場合は、再度の入札（以下「再入札」という。）を行う。ただし、入札参加者又はその代理人のすべてが立ち会っていない場合は、別に定める日時において再入札を行う。
- (2) 無効入札をした者、又は、最低制限価格を設けた入札にあつては最低制限価格に満たない価格の入札をした者は、再入札に参加することはできない。
- (3) 再入札の執行回数は、2回（1回目の入札を含め3回）を限度とする。
- (4) 2回の再入札においても落札者がいない場合は、2回目の再入札をした者のうち、最低の価格で入札をした者と随意契約の協議を行い、合意を得た場合、その者と契約の締結を行うことができる。

(同価格（同評価値）の入札をした者が2人以上ある場合の落札者の決定)

9 落札となるべき同価（同評価値）の入札をした者が2人以上あるときは、直ちに入札をした者にくじを引かせて落札者を定める。この場合において、当該入札をした者のうち出席しない者又はくじを引かない者があるときは、これに代えて、入札執行事務に関係のない職員にくじを引かせるものとする。

(契約の保証)

10 落札者は、契約書の提出と同時に、次により契約の保証を付さなければならない。ただし、請負金額が500万円未満の工事又は委託金額が100万円以下の業務については、契約の保証を免除する。

(1) 保証の提供は、次のいずれかの方法により行うものとする。

- ア 契約保証金（現金）の納付
- イ 有価証券（利付国債に限る。）の提供
- ウ 銀行、発注者が確実と認める金融機関又は保証事業会社の保証
- エ 公共工事履行保証証券による保証
- オ 履行保証保険の契約の締結

(2) 契約の保証に係る契約保証金の額、保証金額又は保険金額は、請負金額又は委託金額の10分の1以上とする。